

北海道ニューリーダーネットワーク検討会議（第3回） 主な発言内容

1 事業名について

- 道としては、「地域未来づくりネットワーク」や「地域づくり人ネットワーク」等を検討しているがどうか。どちらかというとも都市より地域を盛り上げたいという思いがある。「地域」という言葉を加えたい。
- 道として「地域」という言葉を入れたい気持ちは理解できるが、周りから見ると地域づくりをしているが、本人は地域づくりをしている認識がない方々に、いかに抵抗感なく参加してもらうかが一番重要。名称に「地域」という言葉を入れなくても、取組は地域づくりに繋がることをするという事で良い。
- 「北海道」や「北の」等の冠は入った方が良い。
- 「北海道チャレンジャーネットワーク」が良い。「北海道で頑張っている人」というイメージがあり、幅広く捉えてもらえる。また、「チャレンジャー」であれば、完成されていなくても参加できるイメージがある。
- 「北の未来づくりネットワーク」や「北海道未来づくりネットワーク」ではどうか。いろいろな人が対象になるし、堅すぎず軟らかい言葉である。「未来づくり」であれば、若い人が主体のイメージがあり、対象者のイメージと一致しやすい。

2 事業内容

- 現地意見交換会で、地域の方々は自分の居住地近郊での開催を望んでいると感じた。
- 北の観光まちづくりリーダー養成セミナー事業(※)は既に終了したが、ネットワークは現在も存在している。取組の途中経過やどこでつまづいた等と相談や情報交換できる関係を作ることが重要である。

北の観光まちづくりリーダー養成セミナー事業…道が平成20～26年度に実施した観光まちづくりリーダー養成事業。修了生により、「きたかん.net」という任意団体が組織されている。

- 振興局単位の取組についても参集者として応援団会議メンバーを入れた方が良い。
- 事業の大枠はこれで良いが、振興局ごとに規模や地域性があると思うので、各振興局の意見を反映し実施した方が良いものになる。
- 参加者に第1次産業の方が多い場合、振興局単位の取組は11~12月頃、全道の取組は年明けの1月辺りが適当と思われる。
- エレベーターピッチが求められる時代になってきているので、プレゼン5分間は短くはない。必要があれば分科会やカテゴリ分けしても良い。より良いプレゼンを短時間で行うことは、まさに「人づくり」にも繋がる。
- 各人が3分間プレゼンした後、ワークショップを行うのも良い。1人3分、30人で1時間半、その後ワークショップを1時間半実施すれば濃い内容になる。
- 振興局単位の取組でもワークショップを実施した方が良い。その際に、例えばファシリテーターを道職員が担うというやり方もある。困難なら外部講師でも良い。
- ワークショップは参加者で課題を出しあって、その中から興味があるものについて深く掘り下げる方法であればすごく良い。ただし、起業や教育等という漠然とした課題は手に負えなくなる。もっと具体的な課題で、企業の方も一緒に参加していただけるのであれば、すごく実りあるものになる。
- 教育庁で検討中の「青少年フロンティアリーダー養成アカデミー（仮称）」と連携し、中高生にプレゼン等をしてもらえば、大人の緊張度が増す。
逆に、当課の事業参加者が教育庁で検討中の「青少年フロンティアリーダー養成アカデミー（仮称）」の講師になれば、発表する機会が増えて内容がよりまとまっていく。
- 教育庁の事業と連携して展開できると、全体的に取組が広がる。
- この事業でKPIを立てるとすれば、参加者のモチベーションの上昇度などが良いのではないか。